

1. 「AI(30)1」を定義するうえでの前提

- 最小の使用単位であるか。
- 別の容器に移し替えることなく移動することができる最小の荷姿であるか。
- 同じ薬剤で最小の荷姿が複数ある場合は、最小の荷姿すべてのAI(30)を1とする。

2. 剤型・荷姿別のAI(30)

(1)錠剤、カプセル、坐薬、トローチ

【AI(30)のルール】

◆ AI(30)1の定義

AI(30)に示す数量は、各容器に梱包されている最小使用単位
≒バラの実数量とする。

「1錠=AI(30)1」とし、各容器の入り数をAI(30)に設定する。

◆ 荷姿が異なる同容量品の区別

AI(01)のPI、AI(91)の組み合わせで区別する。

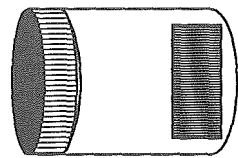
⇒「製品特定のためのコード体系案」の案3に準拠

【JANコード】

同じ薬剤の10錠シート、14錠シート、21錠シートでJANコードが各シート毎に別コード付番されると、最小使用単位である1錠にバラした場合に区別できないため、同一JANコードで管理する。
同じ薬剤のバラとシートは別のJANコードで管理する。同一JANコードで管理する場合は、上記のようにAI(01)のPIとAI(91)の組み合わせで対応する。

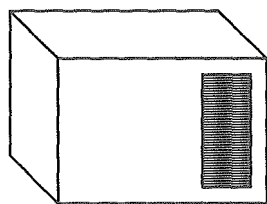
例1) バラ錠

100錠入りの瓶



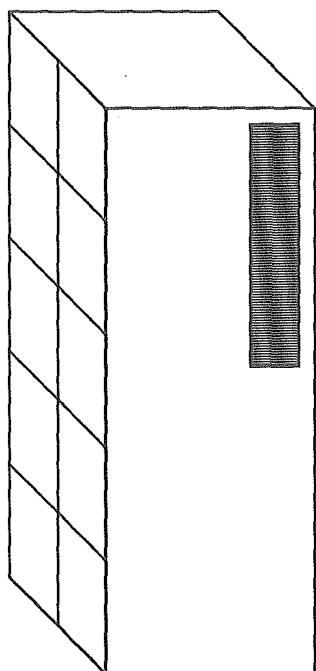
AI(30)100

1瓶入りの箱



AI(30)100

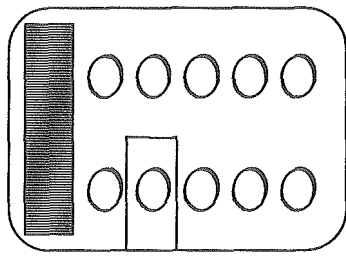
10箱入りの大箱



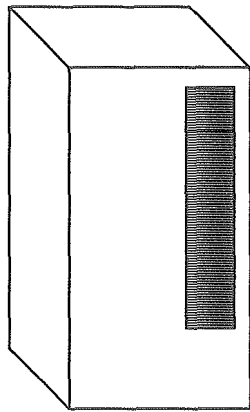
AI(30)1000

例2) シート

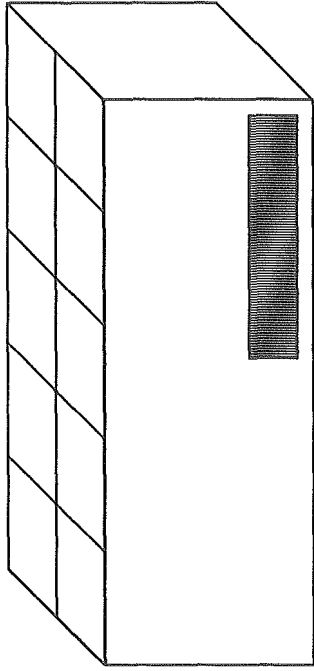
10錠シート



10シート入りの箱



10箱入りの大箱



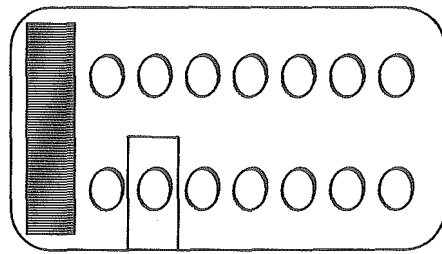
AI(30)10

AI(30)100

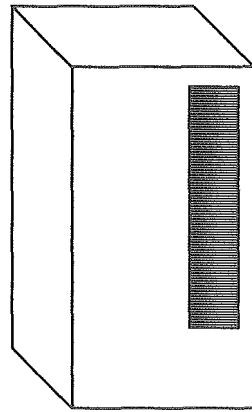
AI(30)1000

区別できないため、同一JANコードで管理

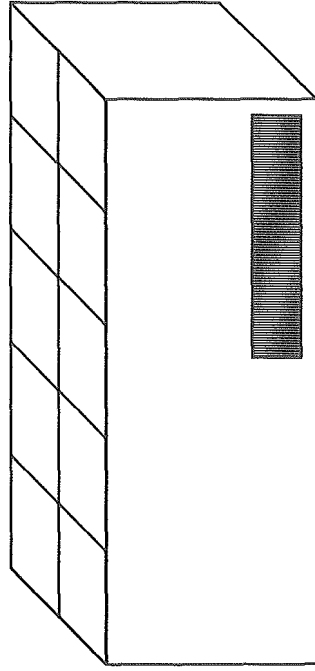
14錠シート



10シート入りの箱



10箱入りの大箱



AI(30)14

AI(30)140

AI(30)1400

(2) 細粒、顆粒、散剤

【製品の特長】

- ◇ 同じ薬剤であっても、製造段階で最小使用単位毎に分包されている製品と医療機関等で調剤時に分包するために製造段階では最小使用単位毎に分包されていない製品がある。
 - ⇒ 同一薬剤に複数の荷姿
- ◇ 1粒単位での管理は現実的に不可能である。

【AI(30)のルール】

◆ AI(30)1の定義

分包の有無に関わらず、別の容器に移し変えることなく移動することができる単位(物流の最小単位)をAI(30)1に示す。

◆ 荷姿が異なる同容量品の区別

AI(01)のPI、AI(91)の組み合わせで区別する。

◆ 内容量

AI(30)1の内容量をAI(92)に定義する。

バーコードへの印字は省略。

注) 容器(梱包)全体の内容量(正味重量)をAI(310)に示すことはISOのルール。

【JANコード】

同じ薬剤で分包種類(2.5g分包と5g分包)が複数存在する場合は、区別することが可能なため、別のJANコードで管理する。
同じ薬剤の分包されていない製品と分包されている製品は別のJANコードで管理する。同一JANコードで管理する場合は、上記のようにAI(01)のPIとAI(91)の組み合わせで対応する。

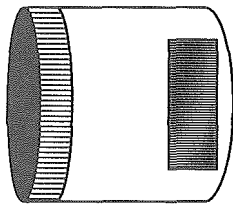
AI(01)のPI、AI(30)、AI(91)、AI(92)の体系案

分包装	容器	AI(01)のPI	AI(30)	AI(91)	AI(92)
無	250g入りの瓶	0	1(省略)	なし	250
	1瓶入りの箱	1	1	01	250
	10箱入りの大箱	1	10	02	250
有	2.5g入りの袋	2	1	01	2.5
	100袋入りの箱	3	100	01	2.5
	10箱入りの大箱	4	1000	01	2.5
	5g入りの袋	2	1	02	5
	50袋入りの箱	3	50	02	5
	10箱入りの大箱	4	500	02	5

➤ AI(92)・・・ AI(30)1に対する内容量をg(グラム)で定義
g(グラム)未満は少数で表記

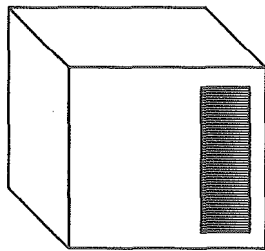
例1) 分包されていない製品

250g入りの瓶



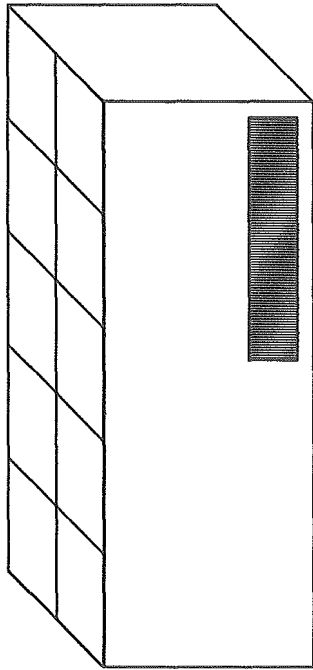
PI	0
AI(30)	1
AI(91)	なし

1瓶入りの箱



PI	1
AI(30)	1
AI(91)	01

10箱入りの大箱



PI	1
AI(30)	10
AI(91)	02

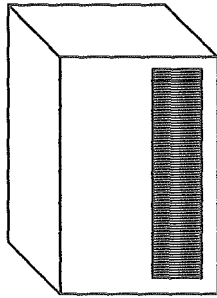
例2-1) 分包されている製品

2.5g入りの袋



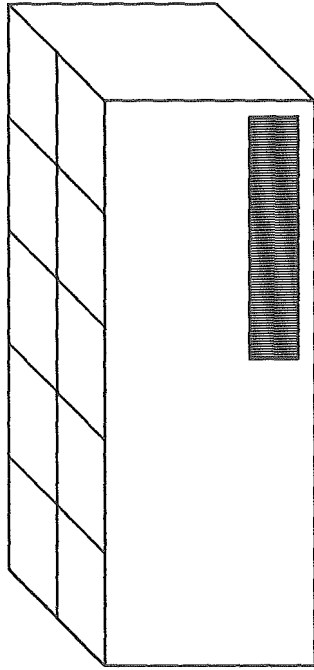
PI	2	
AI(30)	1	
AI(91)	01	

100袋入りの箱



PI	3	
AI(30)	100	
AI(91)	01	

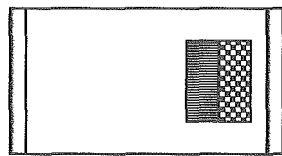
10箱入りの大箱



PI	4	
AI(30)	1000	
AI(91)	01	

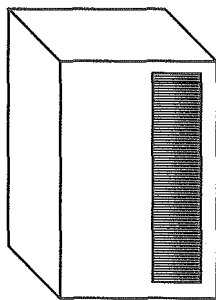
例2-2) 分包されている製品

5g入りの袋



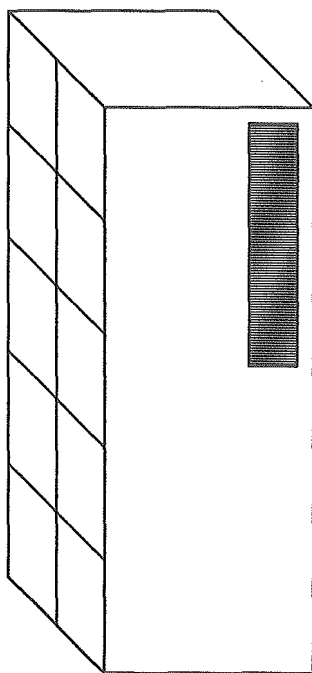
PI	2	
AI(30)	1	
AI(91)	02	

50袋入りの箱



PI	3	
AI(30)	50	
AI(91)	02	

10箱入りの大箱



PI	4	
AI(30)	500	
AI(91)	02	

(3)軟膏、クリーム

【製品の特長】

- ◇ 同じ薬剤であっても、複数の荷姿(瓶、チューブ)がある。
 - ⇒ 細粒、顆粒、散剤と同様
- ◇ 同じ薬剤、同じ荷姿であっても、異なる容量の一次容器がある。

【AI(30)のルール】

◆ AI(30)1の定義

荷姿に関わらず、別の容器に移し変えることなく移動することができる
単位(物流の最小単位)をAI(30)1に示す。

◆ 荷姿が異なる同容量品、同じ荷姿で容量が異なる製品の区別

AI(01)のPI、AI(91)の組み合わせで区別する。

◆ 容量

AI(30)1の容量をAI(92)に定義する。

バーコードへの印字は省略。

注) 容器(梱包)全体の容量(正味重量)をAI(310)に示すことはISOのルール。

【JANコード】

同じ薬剤で容量が異なる一次容器(5gチューブと10gチューブ)が複数存在する場合は、区別することが可能なため、別のJANコードで管理する。

同じ薬剤で一次容器の荷姿が異なる場合(瓶とチューブ)は、別のJANコードで管理する。同一JANコードで管理する場合は、上記のようにAI(01)のPIとAI(91)の組み合わせで対応する。

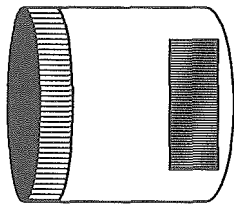
AI(01)のPI、AI(30)、AI(91)、AI(92)の体系案

最小荷姿	容器	AI(01)のPI	AI(30)	AI(91)	AI(92)
瓶	500g入りの瓶	0	1(省略)	なし	500
	1瓶入りの箱	1	1	01	500
	10箱入りの大箱	1	10	02	500
チューブ	5g入りのチューブ	2	1	01	5
	1本入りの箱	3	1	01	5
	10本入りの中箱	4	10	01	5
	10箱入りの大箱	5	100	01	5
	10g入りのチューブ	2	1	02	10
	1本入りの箱	3	1	02	10
	5本入りの箱	4	5	02	10
10箱入りの大箱	5	50	02	10	

➤ AI(92)・・・ AI(30)1に対する内容をg(グラム)で定義
g(グラム)未満は少数で表記

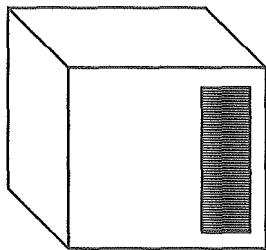
例1) 瓶

500g入りの瓶



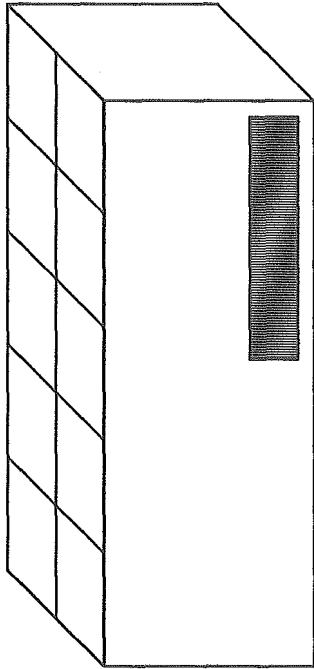
PI	0
AI(30)	1
AI(91)	なし

1瓶入りの箱



PI	1
AI(30)	1
AI(91)	01

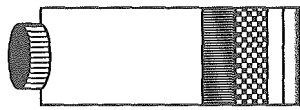
10箱入りの大箱



PI	1
AI(30)	10
AI(91)	02

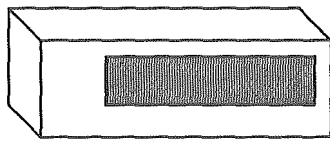
例2-1) チューブ

5g入りの
チューブ



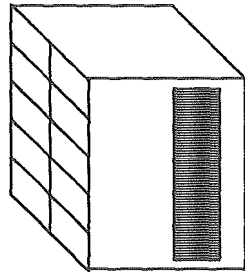
PI	2		
AI(30)	1		
AI(91)	01		

1本入り
の箱



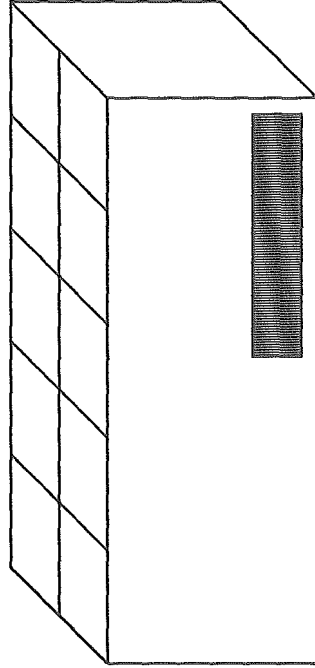
PI	3		
AI(30)	1		
AI(91)	01		

10箱入りの
中箱



PI	4		
AI(30)	10		
AI(91)	01		

10中箱入りの大箱



PI	5		
AI(30)	100		
AI(91)	01		

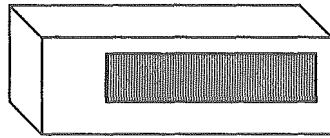
例2-2) チューブ

10g入りの
チューブ



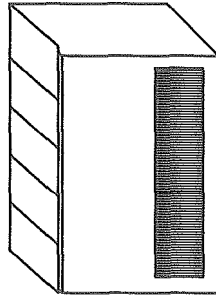
PI	2
AI(30)	1
AI(91)	02

1本入りの
箱



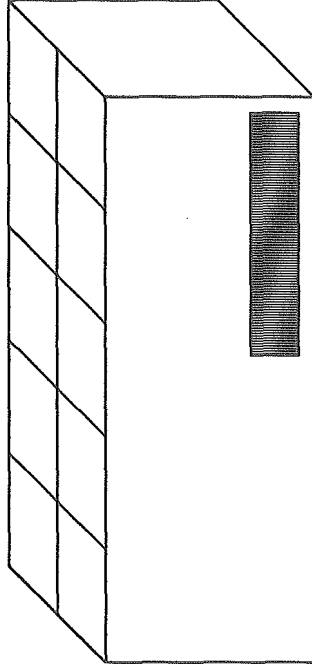
PI	3
AI(30)	1
AI(91)	02

5箱入りの
中箱



PI	4
AI(30)	5
AI(91)	02

10中箱入りの大箱



PI	5
AI(30)	50
AI(91)	02

(4) アンプル、バイアル、シリンジ

【AI(30)のルール】

◆ AI(30)1の定義

AI(30)に示す数量は、各容器に梱包されている最小使用単位＝バラの実数量とする。

「1本＝AI(30)1」とし、各容器の入り数をAI(30)に設定する。

◆ 荷姿が異なる同容量品の区別

AI(01)のPI、AI(91)の組み合わせで区別する。

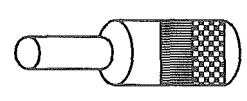
⇒「製品特定のためのコード体系案」の案3に準拠

【JANコード】

一次容器が同じで二次容器(1本入り箱、10本入りの箱)が異なる製品のJANコードが別コードで付番されると、最小使用単位である1本にバラした場合に区別できないため、同一JANコードで管理する。

例)

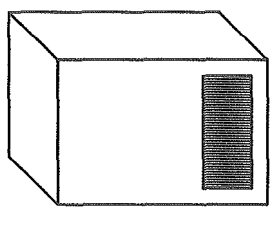
最小使用単位



AI(30)1

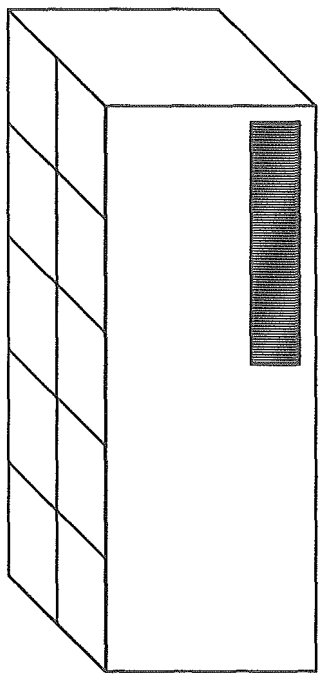
AI(30)1

1本入りの箱



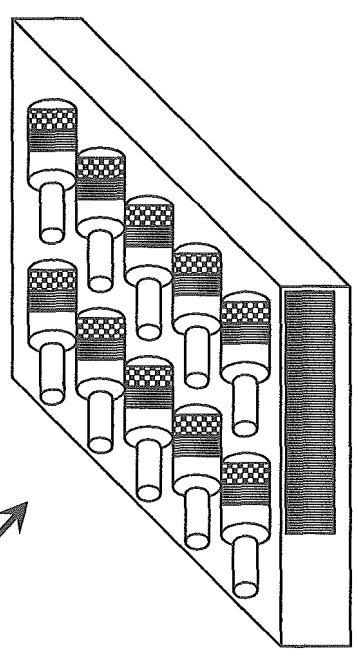
AI(30)10

10箱入りの大箱



同一JANコードで管理

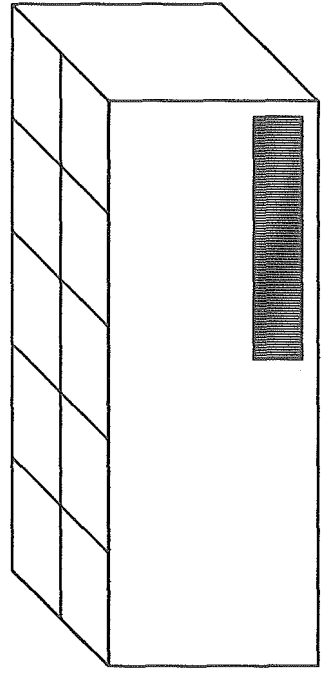
10本入りの箱



AI(30)10

10箱入りの大箱

AI(30)1000



(5)シロップ、点眼液、外用液、水剤

【製品の特長】

- ☆ 同じ薬剤であっても、異なる容量の一次容器がある。

【AI(30)のルール】

◆ AI(30)1の定義

荷姿に関わらず、別の容器に移し変えることなく移動することができる
単位(物流の最小単位)をAI(30)1に示す。

◆ 同じ荷姿で容量が異なる製品の区別

AI(01)のPI、AI(91)の組み合わせで区別する。

◆ 内容量

AI(30)1の内容量をAI(92)に定義する。

バーコードへの印字は省略。

注) 容器(梱包)全体の内容量をAI(310)に示すことはISOのルール。

【JANコード】

同じ薬剤で容量が異なる一次容器(5mlの瓶と10mlの瓶)が複数存在する場合は、区別することが可能なため、異なるJANコードで管理する。
同一JANコードで管理する場合は、上記のようにAI(01)のPIとAI(91)の組み合わせで対応する。

AI(01)のPI、AI(30)、AI(91)、AI(92)の体系案

最小荷姿	容器	AI(01)のPI	AI(30)	AI(91)	AI(92)
瓶 (本)	500ml入りの瓶	0	1(省略)	なし	500
	1瓶入りの箱	1	1	01	500
	10箱入りの大箱	1	10	02	500

最小荷姿	容器	AI(01)のPI	AI(30)	AI(91)	AI(92)
瓶 (本)	5ml入りの瓶	1	1	01	5
	1本入りの箱	2	1	01	5
	10本入りの中箱	3	10	01	5
	10箱入りの大箱	4	100	01	5
	10ml入りの瓶	1	1	02	10
	1本入りの箱	2	1	02	10
	5本入りの箱	3	5	02	10
	10箱入りの大箱	4	50	02	10

➤ AI(92)・・・ AI(30)1に対する内容をml(ミリリットル)で定義

ml(ミリリットル)未満は少数で表記